

### 第3回 倉敷市生物多様性地域戦略策定委員会議事録（要旨）

日 時 平成25年8月2日（金）

14:00～16:00

場 所 倉敷市本庁 207会議室

出席委員 河邊委員長、榎本副委員長、青江委員、井上委員、片岡委員、洲脇委員、  
豊田委員、山口委員、渡邊委員  
事務局 環境政策部 中原部長、永瀬次長  
環境政策課 三宅係長、長谷川主事

#### 1 開会 あいさつ（環境政策部 中原部長）

#### 2 議事

事務局から説明を行った後、委員から質問、意見があった。

委員 この地域の特徴が、日本や岡山県の生物多様性においてどう重要な意味を持つのかを追記したほうが良い。

岡山県や、日本を代表する生態系について書き込むべきである。その他の分はそんなに強調しなくても、このままでよい。

委員長 何が貴重なものか、残さなければならないものなのかを、それぞれの分野の専門家にチェックしてもらうべきである。

事務局 記載種などについては、一応、自然史博物館から意見をいただいて修正している。表現の仕方については、さらに見直しを進めたい。記載種については、この場でなくても良いので、各委員からも意見をいただきたい。

委員 前回に比べ、倉敷らしさが出てきている。

特に5章の具体的な取り組みに、本市の特徴である自然史博物館があるからこそできることがあり、そのことが加えられていることが良い。

委員 倉敷の生き物については、問題点以外も書き込むべき。また、倉敷市に自然史博物館ができた経緯を、コラムに追記してはどうか。

委員 倉敷市自然環境保全条例は、歴史的にも先進的な取り組みであり、詳述してはどうか。

- 委員 一般的に示される生物多様性の4つの危機が、地域の中の問題とどうつながっているかは、解釈しにくい。  
どこまで詳しく記述するかは難しいが、倉敷市の生物多様性保全における課題についてもう少し詳しく記述するほうが、今後どうゆうアクションを起こしていくかということにつながるのではないか。
- 委員長 倉敷市の抱える課題について、大変だということを分かり易く伝えるべき。
- 委員長 倉敷市の危機について、簡単で良いので、1章に持ってきてはどうか。
- 委員 各々の危機と目標はリンクしているか。
- 事務局 危機と目標は、完全にはリンクしていない。
- 委員 危機について、例えば森山や海など生態系のくくりで書いてはどうか。
- 委員 「倉敷市の生物多様性保全における課題」において、サブタイトルにも課題という言葉を使っ  
てはどうか。  
課題のその他に、「2050年までにむけてこの地域で生物多様性保全をすすめていくための基本的な施策体系」を追加してはどうか。
- 事務局 課題については、重複を避けけるため、倉敷の現状を示した部分への記載は控えめにしている。
- 委員 本戦略は、カラー印刷物として仕上げるのか。
- 事務局 ホームページにおいて、PDF等で公開する予定であるが、冊子にするかどうかは未定である。印刷費については、次年度に予算計上することも考えている。
- 委員 携帯フォトシステム「倉敷の生き物を探そう！」の写真を採用してはどうか。  
画像はなるべく倉敷市内で撮影したものを使うべきである。
- 事務局 写真提供については、委員の方を含め、広くご協力をお願いしたいと考えている。
- 委員 種の保存法に指定されている生き物など保護に関し慎重な対応を要する種については、倉敷市内に生息していることは公開しても、具体的な生息地については曖昧にしてはどうか。
- 委員 保護体制が十分でない今の段階で生息域を明らかにする必要はないと考える。

- 委員長 保護できる体制になった段階で公表すればよいということか。
- 委員 保護体制づくりをしていくための地域戦略ではあると思うが、地域戦略で具体的に示すのはどうかと思う。
- 委員 ミズアオイについては、みんなの目で見守る発想で保護してきたが、種によっては、公表は難しいと思う。
- 委員 湿地について、ここに行けば湿地について学習できるということを示すために、すでに公開されている市内の湿地については記載したらどうか。
- 委員 1-3の生物多様性、“エネルギーの循環が繰り返されています”の表現を変更してほしい。
- 委員 「主な海中の生き物たち」については、標準和名でなく、通り名で記載されている種があるので、確認し修正すること。
- 委員 水島地域生き物の状況の「レンコン畑」は「レンコン田」に変更すべき。  
市内で確認された外来生物については、特定外来種だけでなく、要注意外来生物を加えてはどうか。
- 委員 地域ごとの生き物については、偏って表現されないように特徴のあるものだけ記載してはどうか。
- 委員長 獣害のコラムに、ウの被害も追記してはどうか。
- 事務局 農業被害について、捕獲数以外に被害額等のデータも記載する方向で検討する。
- 委員 ウの被害について、高梁川漁業協同組合などに伺ってはどうか。
- 委員 用水が3面コンクリートになり、生態系が破壊されつつあることについて記載してはどうか。  
どんな用水環境で植物が生育しているのかが、各地域でわかれば記載してはどうか。
- 委員長 倉敷の生物危機のかなりの部分が、用水路や小河川と関連が深いと考える。農薬も含めて、護岸工事や水辺の環境問題、環境整備について記載してはどうか。水辺環境が上手くいくことで、かなりの生物の生息環境が回復する。その辺りの再生整備がもう少しあっても良いと思う。
- 委員 「湿地の生き物たち」の生き物の例「コモウセンゴケ」、「トウカイコモウセンゴケ」に訂正すべき。  
「大規模・小規模湿地」の記載は、「湧水型湿地」に訂正すべき。湧水型湿地は、愛知及び瀬戸内沿岸に特徴的に見られる誇れる環境であると思う。

委員 4章の3つ目の目標「生物多様性の恩恵を持続的に利用する」は、「生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する」または、「生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように地域資源を利用する」に変更してはどうか。

委員長 基本目標が、3つから4つに変更したのはなぜか。

事務局 本市の特徴である自然史博物館に関連する調査機能や情報提供機能について特筆したかったためである。

委員 「4章 1. 倉敷市の目指すべき将来像」に関して、地域に存在する日本の生物多様性のなかで重要な役割を担っているような生物や生態系に対して、責任をちゃんと果たす、という表現を加えてはどうか。

何を以て達成しているか評価方法は難しいが、2050年までにこの地域の生物多様性の損失が食い止められている、あるいは生物の多様性が今以上に豊かになっているということを記載すべき。

委員 「森、山の将来像」の「コバノミツバツツジやキンラン」を「コバノミツバツツジやシュンラン」に変更すべき。

委員 基本目標3について”つながりを把握する”という言葉は把握するだけでなく、より積極的な表現に変更すべき。

基本目標に、「それぞれの地域の生物多様性が豊かになった」、「損失を食いとめた」とはどのような状態の事か表現すべき。

委員 目標期間の平成の表記を西暦にしてはどうか。

委員 一般の人によりイメージしやすくなるよう、第4章の生態系ごとの将来像に、文章中に記載された生き物や風景のイメージ画像やイラストを入れてはどうか。

委員 5章に各主体ごとの具体的な取り組みを記載したことは、評価できる。

数値目標については、行政の取組中心に記載されているが、市民等の指針の部分についても、戦略策定後に市民団体などの取組状況を把握することで、地域戦略の効果を把握することにつながるのではないかと。

事務局 民間や市民団体の数値目標に関して、エコツアーなどは、市民団体等が独自に実施しているケースもあるので、できれば評価に取り入れたい。

委員 基本目標1のところに将来的にこの地域の生物多様性についての数値目標を載せておくべきではないかと。

- 委員 「市街地の将来像」のエコロジーネットワーク→エコロジカルネットワークへ変更すべき。
- 委員長 何年か後には前よりも生物多様性の減少を阻止できていることが、まず初めの目標である。そのことが上手く戦略として展開できる表現が必要であり、そのためにはやはり現状把握が必要である。
- 事務局 分析方法、評価方法を今後作っていくことも目標として取り扱えると考えており、施策として取り入れたい。
- 委員 市街地の将来像のイノモトソウを他の種に変更してはどうか。
- 委員 倉敷市の生物多様性保全条例のような形で、生物多様性の保全に関する基本的な施策体系を作ってはどうか。
- 委員 日本や岡山県の生物多様性の中で重要な意味を持つものについては、積極的に保全対策に取り組むという記載を加えてはどうか。
- 委員 基本施策の中に、生物多様性保全のための様々なアセスメントをすることを追記してはどうか。
- 委員 リーディングプロジェクトに、地域戦略における新たな取組みを1ページ程度加えてはどうか。
- 事務局 次回までに、リーディングプロジェクトについてまとめる予定である。
- 委員 事務局は、2050年の目標が絵空事ではいけないと心配しているかもしれないが、私は、絵空事のようなことでもどんどんできている可能性が高いと考えている。実現可能性という点では、具体的なものは書けないであろうが、長期的に見据えたビジョンについては載せられるのではないかと。
- 事務局 取組みの実施の方向性や体系については次回までに加える予定。
- 委員 自然環境保全基礎調査の結果について、珍しいものや外来種だけではなく、生き物に関する網羅的なリストとして印刷されるのか。
- 事務局 調査報告書としてとりまとめられているが、今のところ広く一般に公開する予定はない。希少種のデータも記載されているので、公開するにしてもある程度の制限は必要と考えている。
- 委員長 調査で得られた標本はどこに保管するのか。

事務局 自然史博物館に収蔵される予定である。

委員 レッドデータを見つけたというようなことよりも、普通種が、標本化され自然史博物館に収まっていることが大切である。

事務局 自然史博物館の指導に基づき標本化を行っている。

委員 倉敷には素晴らしい特色ある地域の自然・文化といった環境がある。倉敷市民一人一人が倉敷の環境について理解し、しっかりとした環境観を備えることがとても大切だと思う。

基本目標4に、倉敷市民一人一人の中に環境観が根付くような人づくりを追記してはどうか。  
まずはベースとして全ての市民に倉敷に対する明確な環境観があり、次にその市民の中から子ども達への育みとして体験学習ができる人たちを養成するという流れが大切ではないかと思う。

事務局 今後のスケジュール説明

### 3 閉会 あいさつ（環境政策部 永瀬次長）